



米子市埋蔵文化財センターたより

第29号

2018年6月



いしいうがいにあと

石井要害跡の発掘調査速報！

—新旧二時期の郭を発見—



調査区全景（左が頂部平坦面の郭、右が南西斜面の腰郭）

今年の3月から行ってきました石井要害跡の発掘調査を6月中旬に終了しました。

今回の調査は、石井要害跡の残存部分である八幡神社の丘陵の頂部平坦面と南西斜面の中腹に位置する腰郭を対象として発掘調査を行いました。この丘陵は石井要害の出丸で、二の丸跡とも称される主要な郭です。

調査の結果、新旧二時期の遺構面を確認し、旧時期の南西斜面の腰郭では空堀や土橋状に突出した遺構を検出し、空堀の南端では敵の侵入を防ぐための障壁を設置した遺構3ヶ所を検出しました。その後に旧時期の腰郭を埋め立てて拡張し、新時期の郭を造成していることが明らかとなりました。埋め立て土は固く締まっており版築状に固められていました。また頂部平坦面でも旧時期の腰郭を確認し、その後、南西斜面腰郭と同様に埋め立て拡張して新時期の郭を造成していることが明らかとなりました。新時期の郭では、土坑3基、柱穴を30か所余り検出しましたが、残念ながら建物の存在を明らかにすることは出来ませんでした。

出土遺物は、16世紀中頃から後半にかけての青磁、青花などの貿易陶磁器片や瀬戸美濃、越前、備前などの国産陶器片が多数出土し、この時期の遺構であると判明しました。

現地説明会では98名の参加者があり、昨今のお城ブームの影響を感じました。また今後も頂部平坦面北西側の調査予定があり、石井要害跡の様相が更に解明されると期待しています。（高橋）

発掘調査情報

一日南町宮ノ段遺跡の調査再開

昨年12月から中断していた日南町新屋宮ノ段遺跡の発掘調査を、5月21日から本格的に再開しました。

昨年度は調査区の北側を調査し、縄文時代早期と前期前半の土器が出土したほか、中世墓、近世の神社跡と近代の瓦窯の瓦が出土しています。

今年度は、調査区の残り3,215㎡を調査予定ですが、夏頃には一般対象の現地説明会を開催する予定です。

また、9月21日から10月7日まで、日南町美術館にて米子市埋蔵文化財センター出前展示「日南町の遺跡を掘る」を開催します。新屋宮ノ

段遺跡の成果速報のほか、平成28年度に調査した新屋小タイ田遺跡、新屋川添遺跡の出土品や写真パネルを展示します。入館無料ですので、この機会にぜひご覧下さい。(佐伯)



今年度調査区発掘状況

整理室たより

円筒埴輪の修復整理

一井手挾3号墳出土埴輪ほか

埋蔵文化財センターには米子市内出土の多数の遺物が収蔵されており、他県の博物館などから展覧会のための資料借用依頼がよくあります。

このたび、島根県古代出雲博物館から、米子市内の古墳出土の埴輪を借り受けたいとの打診があったため、該当の円筒埴輪を点検したところ、復元のため充填されていた石膏などが破損していたり、埴輪の器面が劣化していたものが見つかりました。

そのため整理室では、一度古い復元を解体して石膏を外し、バインダーで再強化したあとにクレイテックスという充填剤で復元し修復作業を行いました。

これで運搬に耐え、皆さんに展示品として見ていただくことができます。(小原)



修復した円筒埴輪

向山古墳群は米子市淀江町福岡の独立丘陵の向山に所在する8基の古墳で構成され、うち6基が比較的大きい前方後円墳です。

代表的な古墳は全長64mの向山4号墳で、米子周辺では2番目に大きい古墳です。また、全長48mの長者ヶ平古墳(向山5号墳)は、巨大な横穴式石室を埋葬施設としており、石室上の小石槨から金銅製冠、環頭、馬具、三輪玉が出土しています。また全長54mの岩屋古墳(向山1号墳)は、一枚石の切石組みの石棺式石室という特色ある巨大な埋葬施設を持っています。

この古墳群は、古墳の大きさや副葬品から見て古墳時代後期の6世紀代の汗入地域の歴代首長の墳墓と考えられています。(小原)



上 長者ヶ平古墳石室 下 岩屋古墳石室

コラム

江戸時代を掘る③

一米子城跡 4

この地点は加茂町1丁目16番地にあたり、1994年にマンション建設に伴い緊急発掘されました。

ここは、享保5年(1720)の湊山金城米子新府柄図で「廢宅地」と記された場所で、当時は武家屋敷として整備されていた場所です。

発掘調査では、建物礎石列、溝、土坑、瓦溜りなどの遺構が検出されました。

これらの遺構から16世紀末から18世紀前葉にかけての青磁、青花などの輸入陶磁器、

唐津、備前などの国産陶磁器、瓦、漆器、金属製品、木製品などの遺物が出土しました。

調査の結果、この地点は中村氏の城下町整備に伴い武家屋敷として整備されたのち、中村氏断絶や加藤氏改易に伴い衰退し、その後、荒尾家時代に再整備されましたが18世紀には「廢宅地」となったことを物語っていました。(小原)



建物礎石列と溝

センター・資料館日誌

- 4月 5日(木) 杉谷氏が米子城跡遺物の借用で来館された。
- 4月 19日(木) 米子東高校が遠足で福市公園に来園した。
- 4月 20日(金) 鳥取県立博物館の酒井学芸員が資料返却で来館された。
- 4月 23日(月) 米子市文化観光局関係組織団体連絡会議が開催され小原館長、平木主査が出席した。
- 4月 26日(木) 埋文センター展示室と玄関展示の展示替えを行なった。
- 4月 27日(金) 米子南高校が遠足で福市公園に来園した。
- 4月 29日(日) つつじ祭りが開催されセンターと資料館の施設開放を行った。



- 5月 8日(火) 島根大学岩本准教授が鉄器の調査で来館された。
五千石小学校児童がラリー遠足で来館された。
- 5月 23日(水) 東京文化財研究所の朽津修復計画研究室長他二人が上淀廃寺跡出土壁画の調査で来館された。
- 5月 28日(月) 米子市美術館の青砥学芸員と撮影技師が写場での刀剣撮影のため以後二日間来館された。
- 5月 29日(火) 鳥取県埋蔵文化財センターの小山係長が展覧会出品予定の玉類調査で来館された。

- 6月 2日(土) 石井要害跡発掘調査現地見学会を開催した。
- 6月 4日(月) 関西大学非常勤講師・藤原氏が出土瓦の調査指導に来館された。
- 6月 17日(日) 五千石小学校学年PTA行事で3年生が古代体験に来館された。



- 6月 19日(火) 尚徳小学校3年生が古代学習で来館した。
- 6月 20日(水) 米子松蔭高校の男子1名がインターンシップで22日まで来館した。
- 6月 27日(水) 尚徳小学校3年生が古代体験学習で来館した。
米子南高校の女子2名がインターンシップで29日まで来館した。

編集後記

紫陽花が咲き梅雨の季節となり、雨で発掘現場はたびたび中断しましたが、調査担当者は雨も降らないと水が枯れるため、空を見つめて諦めているようです。

発行日 平成30年6月29日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp